

9/9(金)

## 【分科会 14】地域における家族支援

**コーディネーター**：大島巖（日本社会事業大学/NPO法人地域精神保健福祉機構・コンボ）  
費川信幸（日本社会事業大学）

**出演者**：水上成人（本庄保健所）／岡田久美子（もくせい家族会）  
菅原明美（岡山心理教育研究会／医療法人万成病院）  
片柳光昭（横浜市総合保健医療センター精神科デイケア）

この分科会は昨年に引き続き、家族のリカバリーに向けた支援を地域でどのように広げていけるだろうか、どのような仕組みが役に立つのだろうか、といった点を参加者と共に考える会にすることを目的としていました。全体で約 60 名の方に参加いただき、そのうちご家族が約半数以上を占めました。

この分科会を始めるのにあたり、家族のリカバリーとはどのような経験なのか、参加者に具体的にイメージしていただけるよう、さいたま市もくせい家族会の佐藤氏に、ご自身のリカバリーストーリーを語っていただきました。それに加えて、近くに座っている参加者 5～6 人でグループを作っていただき、この分科会でどのようなことを知りたいか、どのようなことが考えられたら良いかを自由に話し合ってもらいました。

自分自身の生活を大切にするという佐藤氏の話で「家族にとってのリカバリー」のイメージが共有できたようです。グループでの話し合いでは、支援者は家族をどう捉えているのか、家族支援はどこで受けられるのか情報が十分でないという家族側の意見、家族から頼りないと言われた時、うちの子には WRAP は難しいと言われた時にどのように関わっていけばよいのか、家族支援を展開するために地域へどのように働きかけていけばよいのかという支援者側の意見など、様々な背景の参加者間で多様な意見交換がされていました。

参加者が考えたいことが一通り共有されたうえで、飯塚壽子氏（さいたま市もくせい家族会）、水上成人氏（本庄保健所）による「家族による家族学習会」の取り組み、片柳光昭氏（横浜市総合保健医療センター）による「家族 SST 交流会」の取り組み、菅原明美氏（岡山心理教育研究会）による「家族心理教育」を中心とした近隣機関との相互支援ネットワーク構築の取り組みを発表していただきました。いずれの発表も、家族のリカバリーをキーワードとする一つの支援方法をきっかけとして、家族同士が支え合える環境設定をいかに進めていけるか、家族がリカバリーできるような支援を支援者がどのように考えていけばよいのか、それを施設・機関内外で広めていけるようにはどのような支援者間相互のサポート体制が必要か、など、各地での工夫を凝らした取り組みが紹介されました。

これら 3 つの取り組みの紹介は、予め用意していただいていたものであったため、最初に共有された“参加者が考えたいこと”を必ずしも十分にカバーできていなかったかもしれません。しかし、参加者それぞれが考えたい、知りたいと思っていたことを発表内容と照らし合わせて考える機会となっていたようです。

この分科会が狙いとした家族支援のシステムをどのように作り、広げていけばよいのかについて答えを出せたわけではありません。しかし、各地の取り組みを共有することで、家族も参加した取り組み、家族支援を軸とした近隣機関への協力依頼、スタッフが共に支え合えるネットワークづくりなど、今後の取り組みの方向性となるヒントを示す機会になったように思います。

《 贅川信幸（日本社会事業大学） 》